

2016年12月
1113号

万葉 Manyo

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5
(一冊の会研究室)

レソト王国国王・王妃両陛下御一行の東北被災地視察

「天空の王国・レソト」の国王・王妃両陛下を祝福するかのような真っ青な秋晴れの空。11月26日の仙台駅に、レツィエ3世レソト王国国王陛下及びマセナテ・モハト・セーソ同国王妃陛下が降り立たれました。

国王陛下たっのご希望による東日本大震災の被災地・福島県相馬市の視察です。相馬市は日本レソト王国友好協会の前会長である故相馬雪香一冊の会永久最高顧問のゆかりの地でもあります。

新幹線から降りられた国王陛下をホームでお出迎えする大槻会長と一冊の会のメンバー達。国王・王妃両陛下御一行は仙台駅の貴賓室にて歓迎を受けたのち、相馬市までお車で移動されました。

◆福島県相馬市市役所訪問

今年の10月に完成したばかりの相馬市役所新庁舎の入口で国王・王妃両陛下は相馬市役所職員の熱烈的な歓迎を受け、会議室で内堀雅雄福島県知事並びに立谷秀清相馬市長と会談されました。国王陛下は「被災した皆さまの協調力・忍耐力・努力は素晴らしい。今後も東日本大震災の被災者の気持ちに寄り添っていく」と述べられました。(担当:赤田)

◆鉛筆・文具類の贈呈

昼食をお召し上がりの後、一冊の会より王妃陛下へサプライズプレゼントで鉛筆1000本と消しゴム50セット以上の文房具類を贈呈いたしました。これは11月24日の歓迎晚餐会で、国の発展の為に教育が大事であるとお考えを打ち明けられた王妃陛下に大槻会長がお約束した文具支援です。大槻会長と小山副会長が24日の晚餐会終了後から朝4時までかけて事務所の中をひっくり返して探し出し綺麗に整えた品を加茂事務局次長の車で7時間かけて相馬まで運んだものでした。希望した品物が翌日遠い相馬市での突然のプレゼントに王妃陛下もビックリ。王妃陛下から「日本人の誠実と真心のあたたかさは何ものにも代えがたい宝と思います」



1000本の鉛筆と消しゴムの贈呈

と大変お喜びになりました。(担当：瀧川)

◆雪香灯見学

福島の恵たっぷりの食材をお腹いっぱい頂き心いっぱいになって向かった先は雪香灯。災害市営住宅馬場野団地へ。2012年の除幕式から4年たった今も相馬市内を見下ろす高台から東北の被災地に希望の光を灯す復興のシンボルです。小山副会長から雪香灯が点灯し続けるメカニズムの説明にレソト王国一行は興味津津。日本の一流の技術に感銘を受けていらっしゃいました。これからも雪香灯は被災地のみならず日本とレソト王国を繋ぐ輝く未来を灯し続けるでしょう。(担当：城杉)

◆伝承鎮魂祈念館訪問

2011年3月11日に東日本を襲った津波、黒くとてつもなく大きな波により、一瞬にして全てを奪われたまさにその海沿いに建てられた伝承鎮魂祈念館横の慰霊碑へと国王陛下、王妃陛下はゆっくりと歩みより、献花されました。ここは、天皇皇后両陛下が震災後甚大な被害を受けた原釜地区を視察され、被災者を悼み黙礼された場所です。

視察当日の国王陛下王妃陛下の目の前の相馬の海は青く穏やかで、まるで天空の王国レソトの広く澄み渡る青天のよう。国王陛下の『これから先も引き続き被災地に心を寄り添いいつも共にいることを覚えていて下さい』とのあたたかいお言葉が胸に染み渡りました。



慰霊碑に献花する両陛下

祈念館では震災当時の写真や津波発生時の画像などをご覧になられ、胸を痛めており、大槻会長は震災後の家や建物が流され、真っ黒な泥が全てを呑み込んでいる写真を指し、『一冊の会では被災地がこのような状態の時に、支援物資を車いっばいに詰め込み、被災地支援を行いました』と伝えると両陛下始めレソトの視察団は大変に驚かれ、震災後直ぐにレソト王国からの支援物資と追悼のお心と共に被災地を周った一冊の会に深く感謝されました。また、海の近くの高台に建つ真っ白な新しい家を見つけられた国王陛下は、津波後もこの地に生き続ける被災者の強い絆に大変感銘を受けられておりました。

当日は一冊の会の通訳として両陛下と直接お声を交わすという千載一遇の大役を大槻会長、先輩方のご配慮により賜りました。(担当：城杉)

◆雪香プロスパーポローニアの記念植樹

松川浦環境公園で復興記念植樹を行いました。世界津波の日にあわせ「心の絆・大作戦ハンカチ支援プロジェクト」で集めた黄・ピンク・緑・青のハンカチが木々の間をはためかせる中、多くの被災者のみなさんが集まってくださいました。

NPO法人松川浦ふれあいサポートの飯土井理事長がレソト王国の弥栄を願う御挨拶をされた後、相馬雪香先生のお名前を戴き、繁栄の桐の木を意味する「雪香プロスパーポローニア」の植樹に移りました。

お手植えの際、国王陛下は白手袋なんて必要ないと断られ、素手でスコップを持ち、力強く雪香プロ

スーパーローニアに土をかけられます。そのお姿を優しい微笑みで見つめられる王妃陛下の慈愛に溢れた眼差しがとても印象的でした。お二人の思いの籠ったこの樹は大空を目指してぐんぐんと成長することでしょう。植樹は、レソト王国と日本の両国大使、そして立谷市長と小山副会長もお手植えされ、合計3本となりました。



復興記念樹と被災地の皆さん

「復興記念植樹」と「心の絆大作戦・ハンカチプロジェクト」を立上げ東京→相馬を始め東北各地を何度も何度も訪れ今日の日を迎えられたのは、大槻会長の献身的な活動があったからです。私たちはこの場に立って、この事を決して忘れてはならない。と肝に命じました。陰の努力の中にこそ人間の底力が培われる。地道な一步は栄光へと続くことを学びました。

————— 感謝 —————

最後に集まったみなさんと一緒に記念写真をパチリ。一生の思い出に残る記念植樹となりました。

(担当：瀧川)

◆市民との懇談・災害市営住宅団地刈敷田南集会所にて

被災者との直接の面談は大槻会長のコーディネートで始まりました。両陛下が心から望まれていたことのひとつでした。

レソトでは、3月11日はレソト王国建国の父の記念日です。2011年のその日、陛下は記念式典に向かう車の中で日本の震災のニュースをお聞きになったとのこと。この度、被災者から直接、震災当日の被災地の様子が語られました。被災者の阿部新太郎・洋子御夫妻から、消防団員として津波から皆を救うため最後まで使命を全うし津波の被害により亡くなった息子さんの話がありました。阿部御夫妻の語りにも両陛下は真剣に耳を傾けておられました。また集会所に集まった被災者の中に振袖を召して迎えた19歳の少女にお声を掛けられ、今後の新しい日本を担う若者の歓迎に心よりお喜びになりました。

被災者とお別れになった後は、一路仙台へ。

夕食を一緒にいただいて国王・王妃両陛下御一行は無事、東京への帰路に着かれました。(担当：城杉)

◆豆記者・撮影を担当して

私はこれまでで最も高位な、世界最高峰の人物を撮る機会を頂きました。

ここまで高位の人物を撮影するのはもちろん初めてです。しかも一冊の会52年の歴史で最も高貴な海外の大切なお客様をお招きする中での貴重な機会です。

国王陛下を撮るといふ、ともすれば不敬となり、緊張を強いられる中、日本の品格を落とさないよう、日本人として恥じない行動を心がけようと、最大限の注意をして臨みました。

何としても失敗は許されませんので、壊れても代わりの機材で撮れるよう、カメラとレンズは2台ずつ用意しております。

晩餐会、被災地視察中、数えきれない程、国王陛下王妃陛下を撮影させて頂く機会に恵まれました。両陛下はとても威厳があり、あたたかい眼差しで、私のカメラにも視線を向けて微笑んで頂きました。

今回、撮影を通じて、多くの有識者の方々同士の交流の様子を学べた事、気品溢れる方々の所作を間

近で感じられた事、FAWA に続き、自分が日本代表としてどう振る舞えばよいか、意義付けできたことが大きな財産となりました。先輩方にも支えて頂き、世界で活躍できる人材となるため、このような機会を頂き、深く感謝いたします。(担当：山内)

今回の両陛下の訪日に合わせて、今年の10月までレソト大使として在籍され、被災地への植樹を始め震災への支援活動を共に行って下さったリチャド・ラモエレツィ前特命全権大使も来日くださいました。

リチャド前大使との再会に大槻会長は大変お喜びになられ、大使が在籍中に一冊の会、日本レソト王国友好協会と手を携えて一緒に活動して下さった真心に敬意、感謝を表し、今回レソト王国の国王陛下王妃陛下に精一杯の真心でおもてなしをすることによってリチャド前大使が築き上げた一冊の会との強く深くそしてあたたかい絆を示したかったと手を強く握り気持ちを伝えました。リチャド前大使は笑顔で一冊の会には本当に感謝している、これからも築き上げたレソト王国との強い絆を大事にして欲しいと応えてくださいました。

日本とレソト王国とを結ぶ架け橋、友好大使として今後も絆を大事にお互い輝く未来を共に築いていく決意です。

今回の東北視察が109回目の支援になりました。大槻会長の車に荷物を積み、被災地へ赴いた実績に勝るものではありません。大槻会長と小山副会長の汗をかいてのご尽力が全てを大成功に導かれました。長の一念でレソト大使館、外務省、厚生労働省、被災地を全て統括された大槻会長に最敬礼です。

最後に、東北被災地の視察にあたり現地の方々をまとめ心配して下さった齋藤篤理事を始め、相馬市役所の皆様、お集りくださった被災地の皆様、そして影に徹して支えてくださった加茂事務局次長と藤澤事務局次長補に、心より御礼申し上げます。

文：一冊の会研究員 赤田、城杉（旧姓：村岡）、瀧川、山内



今日で11/22、11/24、11/26と3日間の国王・王妃両陛下との行事が終了します。この一大行事の全責任を担って成し遂げた大槻会長に大拍手を送りましょう。

一冊の会一同